



神戸道議会議員

福祉や教育に関する対策が旧土人保護法という法律で行われていることを聞き、愕然としました。「こんな法律は一日も早くなくして、アイヌ民族のための法律を作らなければならない」と考えました。早速、翌年3月の定例道議会での当時の横路知事と旧土人保護法の廃止と新しいアイヌの法制度の必要性を議論しました。当時の道庁からは「道議会史上で『アイヌ』という言葉を使って議論したことはありません。受けられませんか」と。しかし私は「知事、これはどうしてもやる。知事が答えるまでやる」と、こちらの決意を見せると、知事も理解して道民の先頭に立って進めてくれました。これが私がアイヌ民族問題に関わりを持った最初でした。その後、ようやく声が高まり、平成9年に旧法の廃止、アイヌ文化振興法の制定、平成20年には衆参両院で「ア

イヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が採択され、昨年、アイヌ施策推進法（アイヌ新法）が制定されました。これはこれまでの生活向上・文化振興策に加え、地域・産業・観光振興なども含めたアイヌ施策を総合的に推進するものです。この流れの中で戸田町長、白老の皆さんとウポポイ（民族共生象徴空間）に関する要望をしてきましたが、当時の菅内閣官房長官が政府のアイヌ政策推進会議の座長になると、象徴空間の検討が加速度的に進められ実現に至りました。

岡田副理事長

開館はスタートライン

アイヌ文化を検証し、間違った概念を是正するのは国の責務です。白老アイヌ協会は、多方面の方々の協力を得て、国立アイヌ民族博



岡田白老アイヌ協会副理事長

物館の誘致活動を行ってきましたが、先人たちのたゆまぬ地道な取り組みがあったからこそ、設置に向けて弾みがついたと思います。その結果、国立民族博物館が開館しましたが、私たちはこれをゴールと考えてはいません。これはスタートです。これからも博物館と協力体制をとりながら、アイヌ民族が正しく理解される施設となるよう努力を続けたいと思います。

福澤副会長

ポロト湖と先達の努力

白老にはポロト湖があつて、チセがあり、昔からの観光地です。湖畔でアイヌ文化という流れをずっと引き継いできたから、今ここに国立アイヌ民族博物館があると語る人がいます。私もやはりこの白老はポロト湖があつたからこそと思います。湖畔で文化の伝承を地道に続けてきた先達の努力で今、白老にウポポイがあると言えます。訪れた町民は「この場所が本当に白老なのか、と思うくらいのスケール感がある」「すごいのができたな」と話しています。町民の自信と誇りになりますよね。町内会としては、観光客のおもてなしの